

巨大船の座礁・炎上が漁場に与えた影響は、

自動車運搬船「HUAL EUROPE」（総トン数 56,835t）は 2002 年 10 月 1 日に大島の海岸に座礁し、付近の漁場を油で汚染した。また、26 日には火災が発生し、積荷である車や船体の残骸が海底に散乱し漁場被害を起こした。そこで、潜水調査等により被害の状況を写真、ビデオに収録し関係者に情報提供を行った。

実施機関	大島分場	事業名	
------	------	-----	--

背景・ねらい

2002 年 10 月 1 日に伊豆諸島に接近した台風 21 号により、自動車運搬船 HUAL EUROPE（56,835 t）（以下、座礁船）が大島の南東側、波浮港漁業協同組合の栽培区付近に座礁した（図 1）。10 月 1 日、当該船舶からは油漏れが確認され、さらに、11 月 26 日に船体火災が発生し、船体破損とともに油漏れが確認され、海底には焼けた車や船体の残骸が散在した。そこで、油による水産生物等への影響を把握するため、島内の海岸線への油漂着状況、海底の状況確認と周辺の調査を行った。

成果の内容・特徴

1. 座礁船は船首を北に向け、海岸線に平行に座礁していた（図 1, 2）。海岸線上で油被害を確認できた箇所は、座礁船付近からその北側と、島の東側であった。海面上の油膜は座礁船付近と、島の東側から北側でみられた。
2. 火災炎上中（11/26）は油の流失が見られていたが、前日から油が波浮港内に侵入する等、被害が発生していた（図 3）。油被害を確認できた箇所は、島の南東側の筆島から島の南西側のトウシキ周辺と大島南部地区に集中しており（図 4）、これらの地域ではバンパーやタイヤ等車の部品の漂着が見られた（図 5, 6）。
3. 潜水調査では水深約 2～12m 付近を調査し、船首部付近の海底には 10×20m 程の鉄板がみられ、船首部から船体中央部にかけては上記のサイズほどの鉄板が多数確認できた（図 7）。さらに、この周辺では鉄板や火災のため原形をとどめていない自動車やその部品が多数確認された。座礁船船尾付近の水深約 12m の海底では座礁船のものと思われる部品や鉄板が散見された。この付近の海底は大石（高さ 4～5m、直径 2～3m 程）が点在していたが、その岩が割れているのが確認できた（図 8）。岩の表面にはテングサ類の着生がみられ、サザエ、クボガイ類の生息が確認できたが、一部の岩の頂点は海藻類の着生が見られず、座礁船により擦り削られたものと思われる。火災後の潜水調査で採集したテングサ、サザエからは油臭が認められ、特に海藻からの臭いが強かった。

成果の活用と反映

座礁船周辺の油被害を把握し関係機関に報告するとともに、漁業関係者に水中ビデオの映像等を通して、被害の実態を明らかにした。今後の調査結果は、座礁船の撤去作業後に計画されている漁場回復事業の資料として活用される。

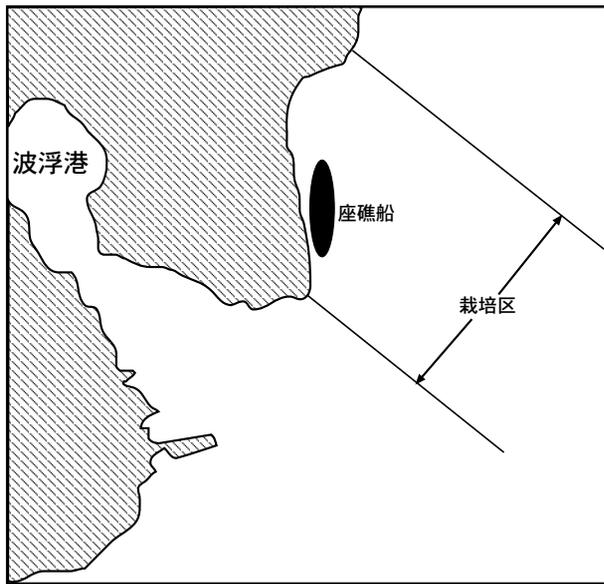


図1 座礁直後の座礁船の様子



図2 座礁直後の座礁船の様子



図3 火災炎上中の座礁船の様子

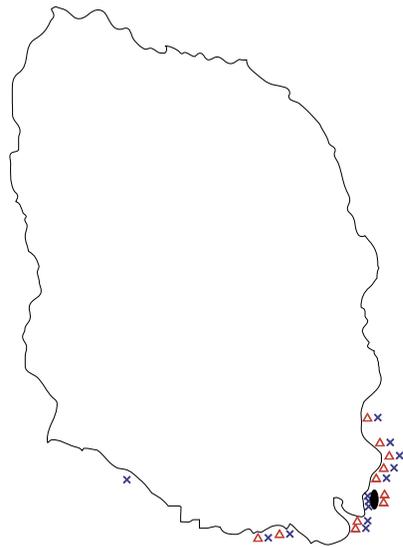


図4 海岸線上の被害状況



図5 海岸線の様子



図6 海岸に打ち上がった油と部品類



図7 海底に散乱する鉄板



図8 割れた海底の岩